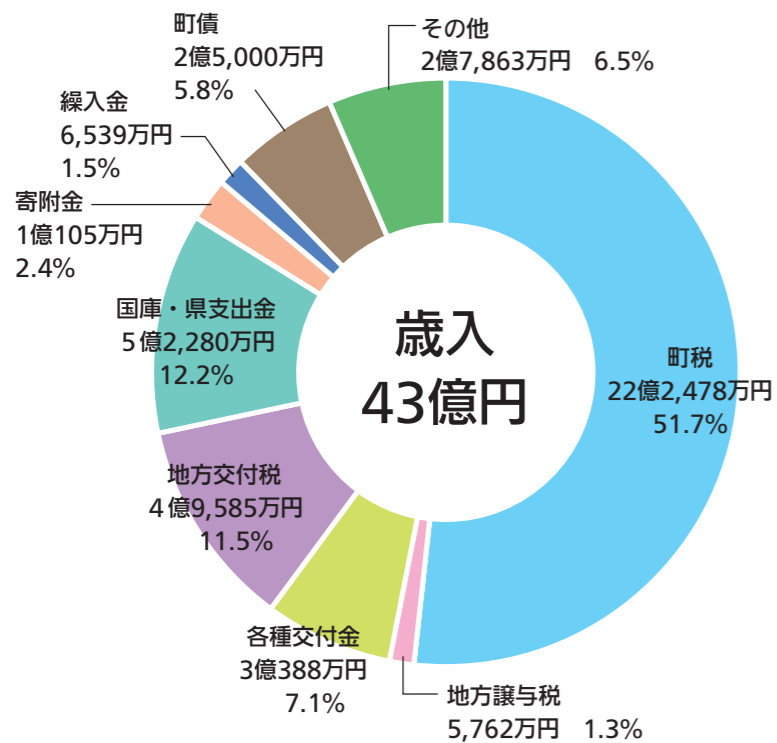




令和4年度 一般会計当初予算額は、43億円

予算とは？

1年間でどれくらいの収入があるのか、どのような行政サービスを行うのかを計画し、その金額を見積もるものです。五霞町に入ってくるお金を「歳入」、使うお金を「歳出」といいます。



歳入

歳入のうち大きなウェイトを占めているのが、町民のみなさんからお預かりしている町税です。歳入全体の51.7%となっています。

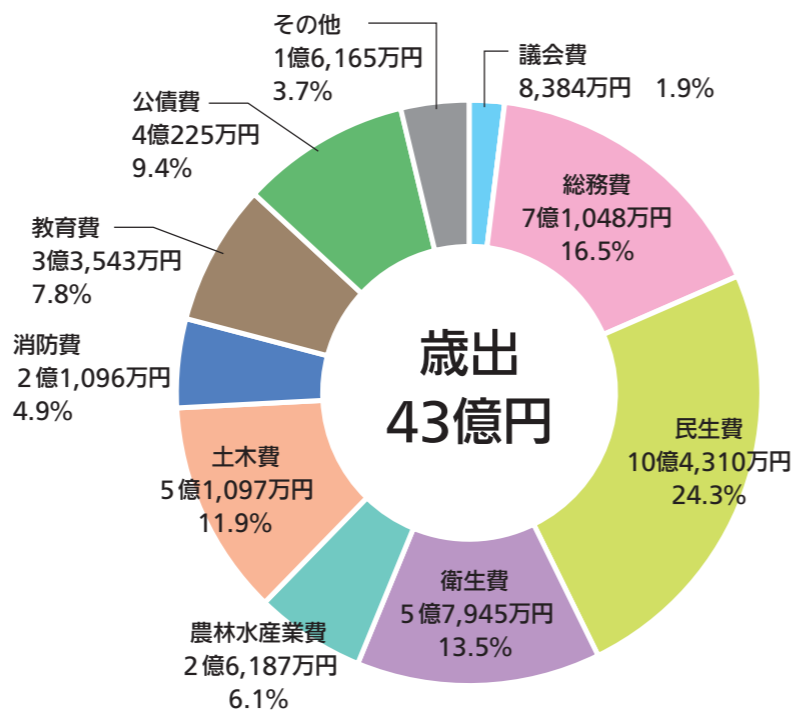
町税には個人・法人町民税、固定資産税、軽自動車税、町たばこ税があります。これらの町税は全ての町民のために使われることになります。



歳出

歳出は民生費が最も大きく、歳出全体の24.3%を占めています。

民生費とは、高齢者福祉や障害者福祉、児童福祉などに関する費用で、社会福祉の充実を図るための行政サービスに使われます。



詳細な予算内容につきましては、町公式ホームページをご覧ください。



令和4年度 町長施政方針



今

年度の施政方針を、3月7日の第1回五霞町議会定例会において、染谷町長が表明しました。なお、全文については、町公式ホームページにて公開します。



これまでの取組について

新型コロナウイルス感染症拡大により、日常の暮らしがかけがえのない毎日であったと改めて実感しています。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、必要な施策を着実に進めてまいりました。

オミクロン株が各地で急増し、未だに終息の兆しが見えないなか、町民の命と健康を守るため、献身的に尽力いただいている医療従事者、介護従事者の皆様に改めて深く感謝申し上げます。

本町では、国・県の支援事業を踏まえ、「町民の生命を守る」、「町民の暮らしを守る」、「五霞の活力を守る」の3つの柱を中心に、感染症防止対策の徹底やワクチンの集団接種、子育て世帯への臨時特別給付金等、必要な施策を講じるとともに、中小企業への事業者支援金給付など、生活支援・経済支援に取り組んでまいりました。

今後も、急増する自宅療養者への見守り・生活支援や、3回目のワクチン接種事業など、町民の健康と地域の医療体制を守りながら、感染拡大防止と社会経済活動の両立を図ります。本町のまちづくりへの意欲を維持しながら、この難局を乗り越えられるように努めていきますので、引き続き皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

- 新規開発地及び区域指定制度
 - ・ 新規開発地や、市街化調整区域内に住宅等の建築を可能にする「区域指定制度」について県と協議
- 主要幹線道路
 - ・ 町道5号線が3月に供用開始
- 道の駅ごかを拠点とした地域活性化事業
 - ・ ほかみらいLabに職員を派遣し、地域資源掘り起こしや商品開発を展開
 - ・ 後背地についてPFI導入等を検討
- 防災・減災対策
 - ・ 一時避難所への避難訓練実施
 - ・ B&G財団による防災拠点の設置
 - ・ および災害時相互支援体制構築
- 学校教育
 - ・ より良い教育環境を提供するための施設整備基本構想を策定
 - ・ オンライン授業を実施
- 観光振興
 - ・ コロナ禍に対応した五霞ふれあい祭り(イルミネーション等)を開催

主な施策展開について

まちづくりの環境が大きく変化するなか、変化をしっかりと捉え、今までの事業との整合性等を検討しながら、各施策を展開してまいります。

第1章 まちのかたち「クラウドデザイン」

- 都市基盤の分野
 - ・ 市街地形成に向けて新規開発地の基本計画を作成
 - ・ 市街化調整区域内に住宅等の立地が可能となるように区域指定を推進
- 空家対策
 - ・ 五霞町空家バンク制度を活用した空家の有効活用と移住・定住の促進
- 防災の分野
 - ・ 防災・危機管理体制を強化
 - ・ 感染症対策を考慮した避難所開設訓練などの実施

第2章 ひのくらし「ライフデザイン」

- 学校整備
 - ・ 五霞町立小学校統合を令和6年4月開校に向けて準備
 - ・ 学校給食運営を境町に業務委託
- 健康支援の分野
 - ・ 猿島郡医師会との連携による3回目の追加接種及び小児への新型コロナウイルスワクチン接種の速やかな実施

第3章 まちのしくみづくり「ソーシャルデザイン」

- 道の駅ごかを拠点とした地域活性化事業
 - ・ 6次産業化による農産物の商品化やふるさと納税を活用した商品展開をほかみらいLabと連携して推進
- 情報発信の分野
 - ・ 「ほかみらいクラブアプリ」を活用した魅力発信
- 地域福祉の分野
 - ・ 企業との包括連携協定による車両移動スパー導入

第4章 まちのしごと「行政運営」

- 移住・定住対策
 - ・ PFIを活用した町有地における公営住宅等の導入可能性調査
- デジタル化推進
 - ・ デジタル化による住民の利便性向上と行政事務の効率化

結び

私が合言葉としてきた「絆」という言葉は、人と人との精神的な繋がりが結びつきを指しています。これは物理的な距離をとらざるを得ないコロナ禍でも、変わることはありません。

今後も、「小さくてもキラリと輝くまちづくり」を旗印に、町民の皆様、団体・企業の皆様とともに、安全・安心に暮らすことができる地域を全職員一丸となって創りあげていくとともに、持続可能なまちづくりを進めていきたいと考えております。